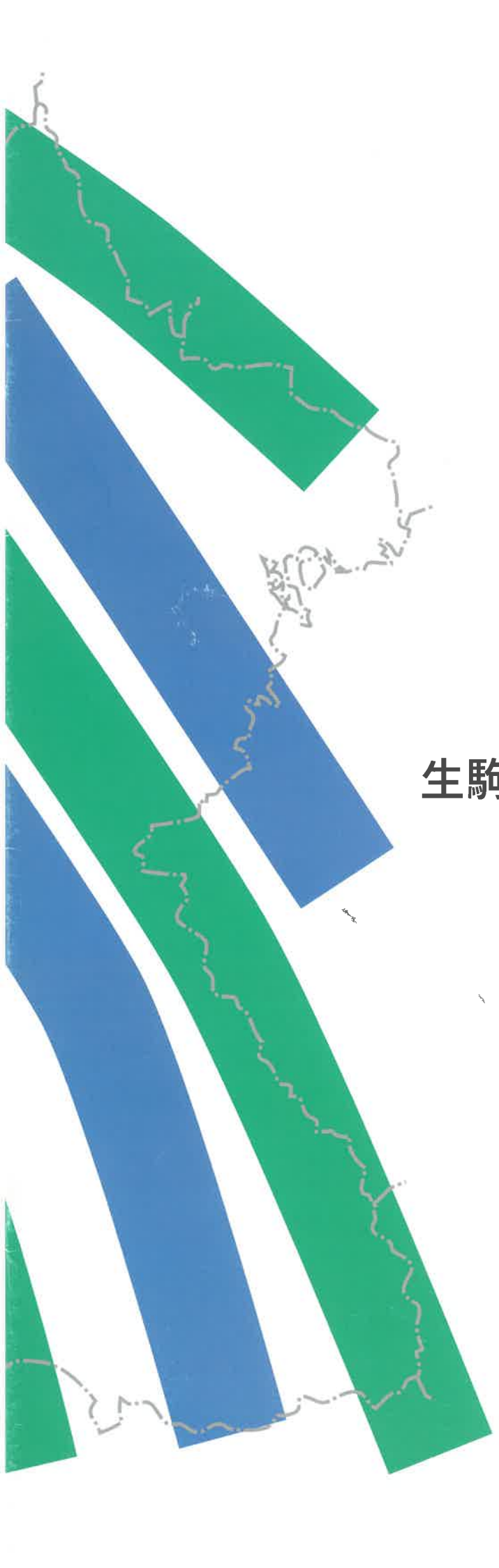




生駒市都市サインガイドライン

平成10年3月

はじめに

ガイドラインの目的 -----	1
●サインとは ●ガイドラインの目的	
●「生駒市都市景観形成ガイドプラン」などとの連携	
ガイドラインの使い方 -----	2
●ガイドラインの構成	
計画指針 -----	3
●「生駒市都市サイン計画」計画指針	

1 何を伝えるのか

1 - 1 情報の整理 -----	4
◇サインの理想形	
●サインによる情報伝達が最適か ●何を伝えるのか ●極力簡潔にする	
●構成をわかりやすくする ●情報のサポート	
1 - 2 ことばの整理 -----	6
●ことばの統一 ●英文 ●文字（書体） ●マーク（ピクトグラムなど）	
●視認性を高める色彩	
1 - 3 わかりやすいレイアウト -----	8
●レイアウトの役割 ●情報の構造（組立）を図にしてみる	
●レイアウトの基準線を設ける ●明確な基準線の例	
●誘導サインのレイアウト ●空白にも意味がある	

2 伝える相手について

2 - 1 歩行者と車 -----	11
●歩行者 ●サインの大きさの考え方 ●車	
2 - 2 外来者と生活者 -----	13
●外来者と生活者 ●配慮のポイント	
2 - 3 生活弱者 -----	14
●障害者 ●高齢者 ●子供 ●障害に対する一般的な配慮事項	

3 伝える場について

3 - 1 周辺環境との調和 -----	16
◇サインの機能を高めるために	
●整理しながら設置していく ●情報伝達にふさわしい場の創出 ●他のサインとの連携と協調	
●民間サインとの連携の例	
3 - 2 景観への配慮 -----	19
◇景観とサインは別物ではない	
●谷筋を中心とする都市構造 ●「生駒らしさ」に対する配慮	
●景観に配慮したサイン ●エリア別の景観特性に対する配慮	
●自然景観地区 ●田園文化景観地区 ●都市的景観地区	

参考

サインの種類と整備のポイント -----	28
誘導サインシステム -----	30



●サインとは

一般的には、道路標識や看板類、案内板などをサインとといいます。

その中でも、公共機関が設置するものを「公共サイン」といいます。これは、人が安全、快適、スムーズに行動あるいは生活するための判断基準を与えているものです。

このガイドラインでは、市が設置する「公共サイン」を直接の対象とし、民間の看板などを含めた広義のサインは、「公共サイン」が機能するために必要な連携の対象としてとらえます。

●ガイドラインの目的

このガイドラインでは、「公共サインは市（行政）と、外来者や生活者とのコミュニケーションの一手段である」（4ページ参照）という視点に立って、コミュニケーションとしての機能を高めるための「基本的な考え方」と具体的な企画・設計に活かせる「ヒント」をまとめました。

●「生駒市都市景観形成ガイドプラン」などとの連携

サインは都市の景観を構成する一要素です。

サインをそれぞれの景観のなかに取り込み、かつ、見やすいものにするためには、まちの景観との調和が不可欠です。

そのために、「生駒市都市サインガイドライン」及び「生駒市都市サイン計画」は、「生駒市都市景観形成ガイドプラン」及び「生駒市景観デザインマニュアル」との連携を図ります。



はじめに ガイドラインの使い方

●ガイドラインの構成

構 成	主な内容
はじめに	ガイドラインの目的、使い方、計画指針
1 何を伝えるのか	情報やことばの整理方法、表示方法について
2 伝える相手について	伝える相手に配慮した効果的な伝達方法について
3 伝える場について	まちなみや景観との調和について
参 考	サインの種類と誘導サインシステムの紹介

■参考文献、関連法規

生駒市都市サイン計画
生駒市都市景観形成ガイドプラン
生駒市景観デザインマニュアル
道路標識設置基準（建設省）
屋外広告物法
奈良県屋外広告物条例
奈良県屋外広告物条例施行規則
奈良県住みよい福祉のまちづくり条例
奈良県住みよい福祉のまちづくり条例
設計マニュアル
生駒市各地区地区計画
生駒市環境保全条例

文化財保護法
奈良県文化財保護条例
建築基準法（工作物の確認）
道路法（道路占用の許可）
道路交通法（道路使用の許可）



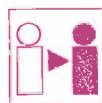
3 伝える場について

設置する場所（周辺環境や景観）に対する配慮



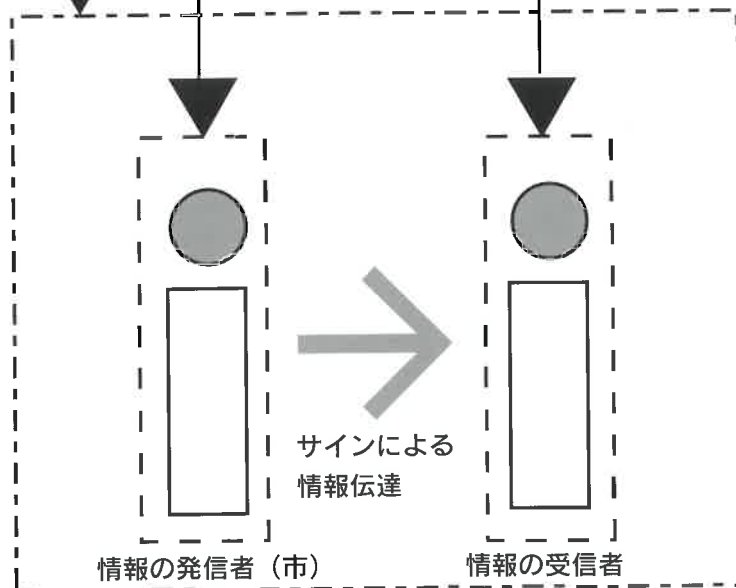
1 何を伝えるのか

発信する情報に対する配慮



2 伝える相手について

情報を受け取る側に対する配慮



コミュニケーションの場



●「生駒市都市サイン計画」計画指針

このガイドラインの基となる「生駒市都市サイン計画」の計画指針は以下の通りです。

「コミュニケーション」の手段

1 機能

「情報を伝達する」というサイン本来の機能を充実させる。

2 配慮

伝達する相手、内容、空間に対して総合的に配慮を行い、確実かつ効果的な情報伝達を図る。

3 姿勢

情報発信者としての市（行政）に対する、信頼感、親近感が感じられるサインの実現を図る。

「生駒らしさ」を大切にする

1 景観特性

「都市と自然が調和した景観」

背景となる自然と、人がつくりあげてきた歴史、文化、都市基盤、建物が調和する魅力的な景観

2 望まれる都市のイメージ

「快適な住宅地、都会的な市民生活」

生駒の自然や歴史と調和しながら、快適な住宅地、都会的な市民生活のイメージ

3 都市構造

「生駒の魅力と構造をわかりやすくする谷筋」

生駒の地形とそこで培われた歴史、文化、生活になじんだ川沿いの動線（谷筋）

「基本方針」

1 機能強化のための情報基盤の確立

- ・情報の管理、情報内容の整理
- ・サインシステムの確立
- ・サイン設置、管理体制
- ・国際化（英文併記など）

2 人にやさしいまちづくり

- ・わかりやすさ
- ・情報伝達にふさわしい場づくり
- ・バリアフリー

3 生駒の魅力・生駒らしさへの配慮

- ・生駒の魅力、景観に対する配慮
- ・景観のコントロール

4 より機能的、効果的にする連携と協調

- ・関連する事業、計画との連携
- ・民間、地元との協力
- ・他の情報伝達手段との連携



1 何を伝えるのか

1-1 情報の整理

◇サインの理想形

コミュニケーションの手段で最も基本的かつ優れているのは「会話」です。

人と人が向かい合って「会話」をする時、相手の年齢や性格、表情、身振りなどから判断して、ことばを選ぶことができます。また、わからないことや、詳細な情報を知りたいときは、相手に聞き返すことができます。さらに、まわりの状況に応じて声の大きさを変えたり、時間に余裕がないときなど、要点だけを伝えることもできます。

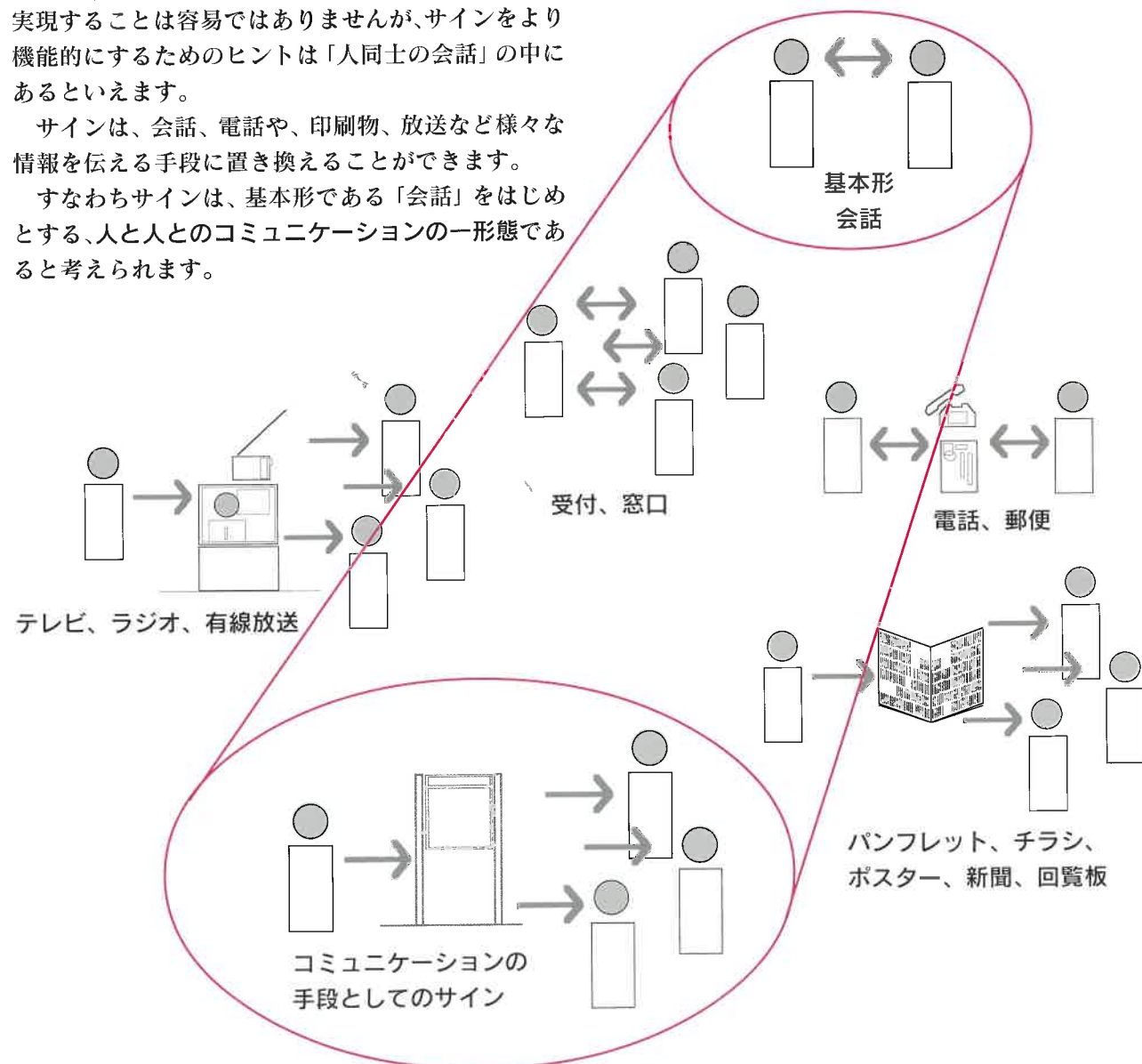
相手の状況や場所を考慮した情報伝達を双方向に行うことで、伝達の確実性が高まります。

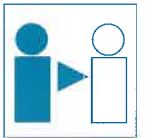
このような双方向のコミュニケーションをサインで実現することは容易ではありませんが、サインをより機能的にするためのヒントは「人同士の会話」の中にあるといえます。

サインは、会話、電話や、印刷物、放送など様々な情報を伝える手段に置き換えることができます。

すなわちサインは、基本形である「会話」をはじめとする、人と人とのコミュニケーションの一形態であると考えられます。

■様々なコミュニケーションとサイン





■サインによる情報伝達の利点と注意点

利点	・伝えたい情報を伝えたい場所から発信することができる。 ・サインの構造や表示面の印刷方法を工夫すれば、耐久性が確保され、長期間情報を伝え続けることができる。
注意点	・周辺環境や景観に与える影響が大きい。 ・半恒久的な施設であるため情報内容の更新が容易でなく、維持管理が必要。 ・設置コストが他の伝達手段と比較して高い。 ・ボリュームが大きなものや、他の情報も集中するような場所では、設置するスペースを確保しにくい。

●サインによる情報伝達が最適か

情報は、普段の会話や書類による情報伝達と同じようにサインに表現しても、送り手側の意図通りに伝わらないことがあります。

そのため、確実に情報を伝えるためには、サインによる情報伝達の利点、注意点、限界を把握した上で、効果的な表現方法をとる必要があります。

情報を伝える手段はサインだけではありません。

情報の内容によっては、他の伝達手段（パンフレット、電話、訪問、テレビ、ラジオなど）を使った方が効果的な場合があります。

伝えようとしている情報が、サインによって十分伝わるかどうか検討してみてください。

●何を伝えるのか

情報内容を分かりやすくするためには、まずサインの目的、すなわち誰に対して何をどのように伝えるのかを明確にする必要があります。

●極力簡潔にする

ここぞとばかりに一枚の看板の中に情報を詰め込む例を見かけます。

情報は簡潔なほど、少ない時間で伝わり、理解されやすくなります。確実に伝えるためには、情報を一つ一つ吟味することが必要です。

●構成をわかりやすくする

わかりやすいサインにするためには、以下の点に配慮して情報の整理をする必要があります。

- ・構成をわかりやすくする
- ・主となる情報と従となる情報を明確にする
- ・長い文章を避ける（箇条書きが有効）

●情報のサポート

会話や電話など双方向のコミュニケーションと違い、サインが一方的なコミュニケーションである以上、情報の発信側と受け取り側との間でずれが生じることがあります。

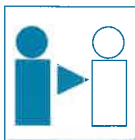
情報は時間がたてば古くなることもあります。必要に応じて情報を更新することが求められます。

また、サインを設置するときには、問い合わせ先や情報の有効期限を明記して、情報内容についての責任を明確にしておくことが必要です。

■表示例

問い合わせ 生駒市〇〇課
TEL 〇〇〇 - 〇〇 - 〇〇〇〇

この情報は平成〇年〇月まで有効です。
または、
この情報は平成〇年〇月現在のものです。



1 何を伝えるのか

1-2 ことばの整理

●ことばの統一

サインごとに、ことばや表現が違くと利用者が戸惑います。

施設名や地名など、共通して使われることばについては、同じ表現にする必要があります。

また、他のコミュニケーションの手段である広報やパンフレットなどとも、ことばを統一する必要があります。

■ことばを選ぶ時の注意点

見る人に誤解をまねかない範囲で、できるだけ簡単でわかりやすい名称にする。

- ・「生駒市」「奈良県」など管理上のことばの省略
- ・愛称など利用者になじんでいることばの使用
- ・駐車場やトイレなど施設の名称より機能が重要な場合は、機能そのものを表す名称やピクトグラムでの代用を検討する。

例)

奈良地方法務局生駒出張所 → 法務局

〇〇駐車場 → **P**、駐車場

●英文

近年、サインに和文と英文を併記することが一般的となっています。特に、鉄道や国道などに設けられているサインや標識のほとんどに英文（ローマ字）が併記されており、それらを利用して生駒市を訪れる外来者に対しては、市内のサインにも英文を併記することが望まれます。

使用する英文表記についても、市内あるいはネットワークするサイン間で統一することが理想的です。

■駅や道路での英文併記の例



●文字（書体）

基本的に、判別しやすく読みやすければ、どのような書体を使ってもかまいませんが、以下に標準的な書体、大きさ及び特徴を挙げます。

■ゴシック体

和文
英文

美しい水と緑をまもります。

Abcdefg Hijklmn Opqrstu Vwxyz

書体例

和文 ゴナ体、石井ゴシック体
英文 ヘルベチカ、ユニバース

A (文字高)
A/4
A/2

サインに用いられる標準的な書体です。離れた場所からの視認性が高く機能的です。

■明朝体

和文
英文

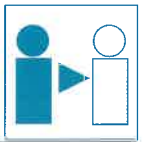
美しい水と緑をまもります。

Abcdefg Hijklmn Opqrstu Vwxyz

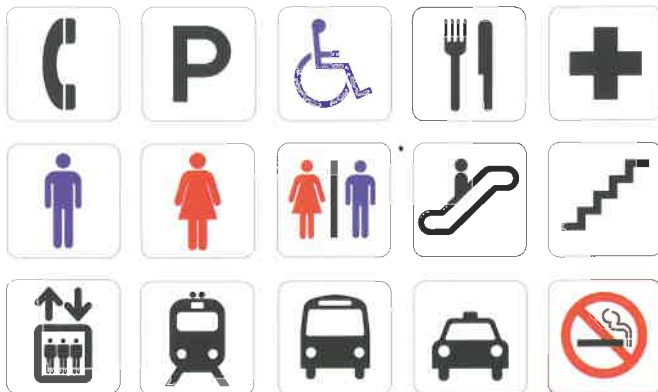
書体例

和文 石井明朝体（細）
英文 センチュリー

長い文章に適しています。印象がやさしくなりますので、情報の内容など状況によっては積極的に使う場合があります。



■標準的なピクトグラム

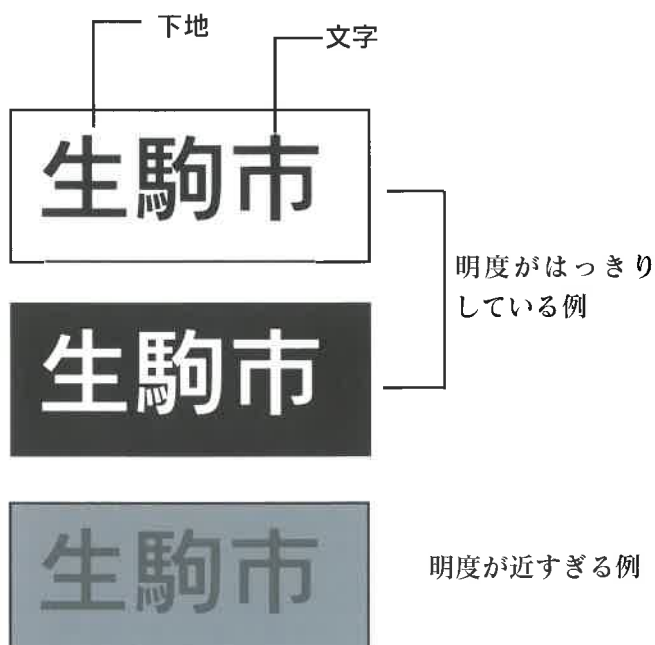


※現在、ピクトグラムはISO（国際標準化機構）によって、世界的に共通化が図られています。

■ピクトグラムとは区別すべきマークの例



※上の写真は、各施設のシンボルマークを標識に表示した例です。ピクトグラムのように広く知られていませんから、マークの意味がわからなくても迷わないように矢印と離して配置するなど、表現方法が工夫されています。



●マーク（ピクトグラムなど）

1) ピクトグラム

左図のようなマーク（ピクトグラムといいます）は、より多くの人に対してすばやく正確に情報を伝えるために開発されたもので、様々な場所で利用されています。

情報の伝達能力は文字よりも優れていますので、文字とピクトグラムを並べる場合は、文字より優先して配置します。公衆電話やトイレなどは文字なしで使うこともできます。（ピクトグラムの使用例は10ページを参照）

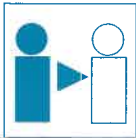
2) その他のマーク

同じようなマークでも施設のシンボルマークやイラストのように、サインの機能面とは直接関係ないものについては、誤解をまねかないために上記のピクトグラムとは区別し、矢印や文字とは切り離して配置するなど、取扱いに注意する必要があります。

●視認性を高める色彩

基本的に、白い下地と黒い文字のように、明度差（色の濃い、薄い）をはっきりさせれば視認性は高くなります。

また、下地を黒、文字を白にするような場合は、その逆に比べると若干文字が細く見えますので、遠距離からの視認性が求められる場合は文字を太くする必要があります。



1 何を伝えるのか

1 - 3 わかりやすいレイアウト

●レイアウトの役割

レイアウトは単に文字や図をきれいに並べるためのものではありません。

レイアウトは、設置者が確実に伝えたい情報を伝える、あるいは利用者が迷わず自分に必要な情報を得るために必要な手段です。レイアウトを工夫することによってサインをより機能的にすることができます。

一目でサインの構造と必要な情報内容を判断できることが理想です。

●情報の構造（組立）を図にしてみる

右図のようにサインに掲載する情報を階層的に整理してみます。

1) タイトル

サインの目的をはっきりさせます。

2) 見出し

本文の情報の種類を分類します。利用者はこの部分を見て自分に必要な情報を検索します。

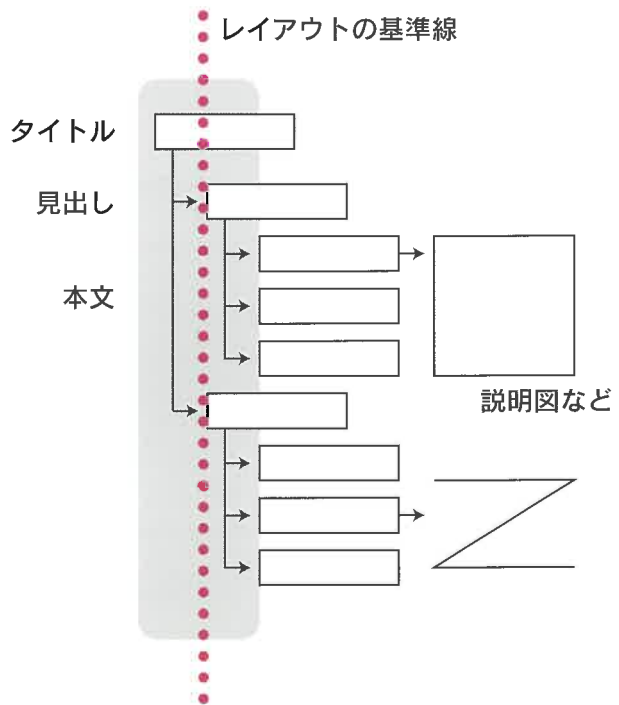
3) 本文

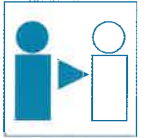
本文は、一文当たりの文字数を少なくすることが重要です。読みやすい文章の例として、新聞の記事は一文あたり30文字程度を目安にしています。

●レイアウトの基準線を設ける

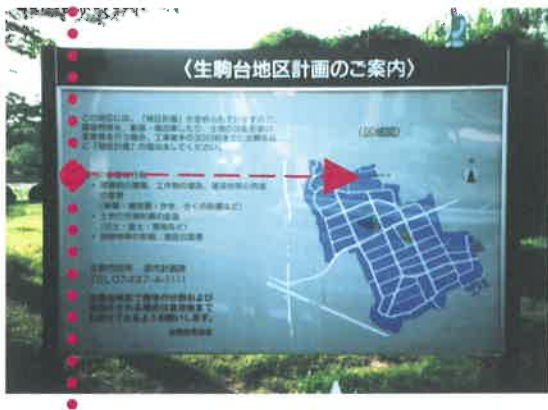
右図の影になっている部分が、表示面全体をメリハリのあるものにし、見やすくしています。表示面全体の背骨ともいえるこの部分をレイアウトの基準線と呼びます。

基準線は、読み手が表示面全体の構成を理解しながら、順を追って、あるいは自分が必要とする情報だけを読み取るためのナビゲーションの役割を果たします。





基準線



基準線



基準線

●明確な基準線の例

1) 横書き（左揃え）

最も一般的なレイアウト方法です。利用者が特に意識せずに、スムーズに読み、理解する事ができます。

また、地図などとの相性がいいのもこのレイアウトの利点です。

2) 横書き（中揃え）

このレイアウトは人の注意を引きつけます。この特徴を活かし、映画、演劇、展示会などのポスターによく使われています。

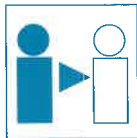
注意すべき点は、タイトルや見出しのメリハリをつけにくいので、構造が複雑なものには不向きであるということです。

3) 縦書き（上揃え）

最近では少なくなっていますが、和文との相性がよく、文章の量が多い場合などに使うと、読みやすくする事ができます。

※どのレイアウトも、隣に異なるレイアウトのサインが並ぶと、不自然に感じることがあります。

※本や雑誌の見やすいレイアウトを参考に工夫してください。



1 何を伝えるのか

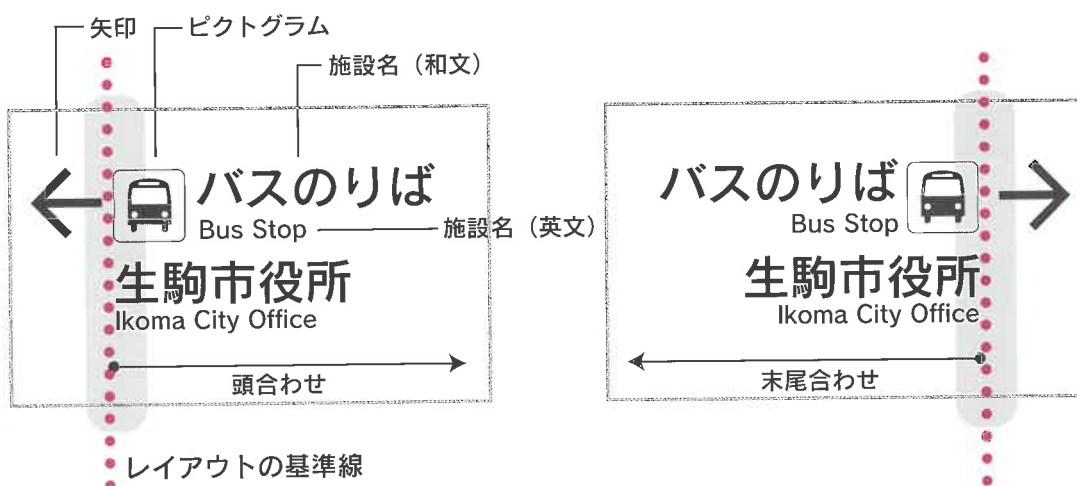
1-3 わかりやすいレイアウト

●誘導サインのレイアウト

基準線を基に、矢印とピクトグラム、文字（和文、英文）の関係を統一することが重要です。

標準的な誘導サインのレイアウト例を挙げます。

基本的には、「矢印-ピクトグラム-施設名」の順に並べます。基準線は、矢印と他の情報との間に設定してください。



●空白にも意味がある

よく表示面全体を隙間なく埋めるように、情報を配置しているサインを見かけます。これは、経済的かもしれませんが、機能的ではありません。

表示面における基準線がはっきりと認識できるように、ある程度空白を配置することが、読み手の理解を助けることになります。

また、表示面の疎密（文字の多い、少ない）を整えるために、均等配置（右図参照）を用いたサインをよく見かけます。

この配置方法では、両端を基準として配置する事になるため、基準線があいまいになります（基準線が2本に見える）。また、文字同士の間隔が広くなると読みにくくなるので、文字数の差が大きい場合や、行間が狭い場合は使わない方が無難です。

市役所
セラビーいこま
コミュニティセンター

頭合わせ

右側に空白が生じるが、それぞれの名称は読みやすい。

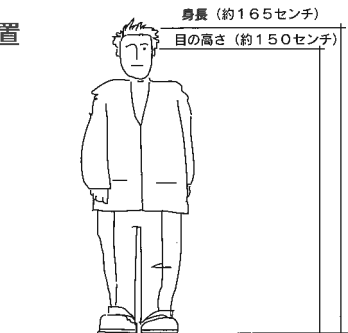
市役所
セラビーいこま
コミュニティセンター

均等配置

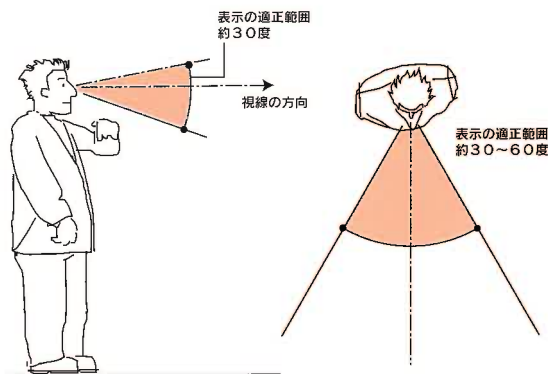
両端がそろっているのが、整っているように見えるが、文字は読みにくい。



■人の身長と目の位置



■表示の適正範囲



●歩行者

1) 人の身長と目の位置

人は、目の高さに近いほど、意識せず、スムーズにものを見ることができます。

2) サイン全体が視野に入るのが望ましい

人が一見して、文字や形、色を判断できる範囲は、決して広くありません。

首の動きや体の動きを合わせれば、かなり広い範囲の情報を受け取ることができます。しかし、サインの情報は、瞬時に確実に伝わるのが望ましいので、サインは、利用者の視野におさまることが大切です。

3) サインの大きさはサインを見る位置で決まります

適切なサインの大きさは、次の2つの条件を満たすことで決まります。

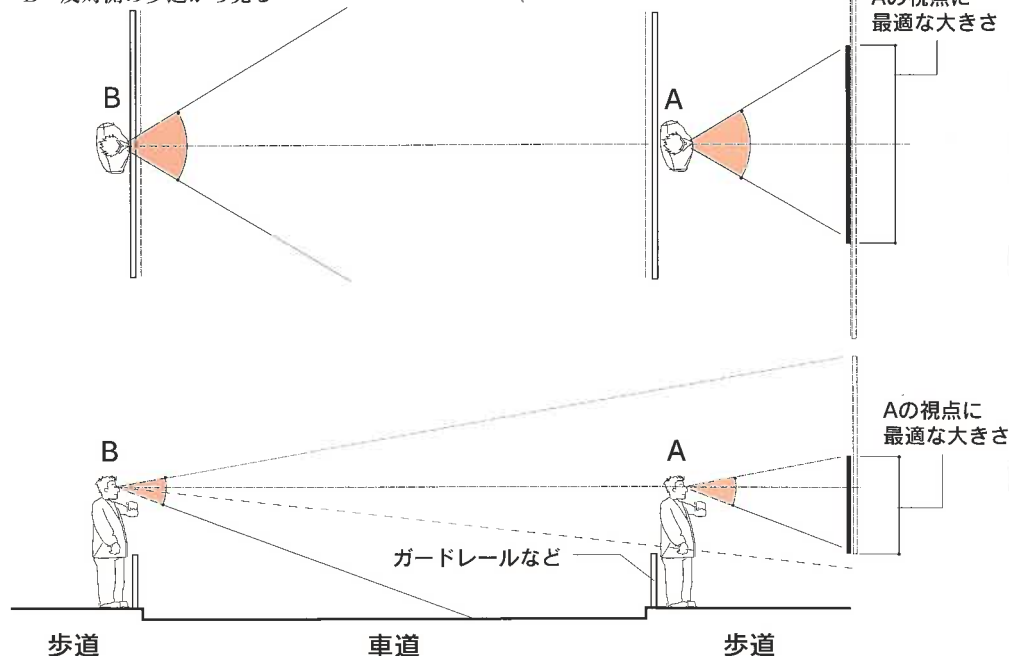
- ・サインの対象者が、サイン（表示面、レイアウト）を一目で認識できること
- ・サインの対象者が、サインの文字を十分に読めること

●サインの大きさの考え方

(歩道に設置する場合)

A：サインのある歩道から見る

B：反対側の歩道から見る



■Aに対してサインを機能させるためには

表示面の大きさは文字や記号を識別できる視野内におさめることが重要。はずれると全体の構成がわかりづらくなる。

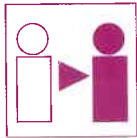
詳細な情報の文字の大きさは、近よって見ることができると、小さくてもよい。

■Bに対してサインを機能させるためには

サインの大きさより、文字の大きさが重要になる。

■A、B両方に対して機能させるためには

サインの大きさはAの視点に最適な大きさ、文字の大きさはBの視点に最適な大きさにする必要がある。



2 伝える相手について

2-1 歩行者と車

●車

車のためのサインは、建設省の「道路標識設置基準」により、仕様が決められています。

ドライバーは、高速で移動している上に、運転しながら限られた視界からサインを見ることになりますので、サインを見る条件としては非常に厳しいといえます。

下図は、ドライバーに対してサインを設置することが望ましい場所を表したものです。これらは、設置基準で定められた場所であり、ドライバーが経験的に注意を向ける場所でもあります。車に対する情報は普段見慣れた場所に設置しないと、混乱を招いたり、見過ごしてしまうことがありますので注意してください。

■車のためのサインの仕様

■一般

・案内標識にはローマ字併用表記を行う。

(頭文字のみ大文字、他は小文字)

・日本字1に対して英字大文字の高さを1/2とする。

■文字の大きさ(一般道路に用いる案内標識の基準となる各文字の大きさ)

□漢字

設計速度70 km/h以上 30 cm

設計速度40~60 km/h 20 cm

設計速度30 km/h 10 cm

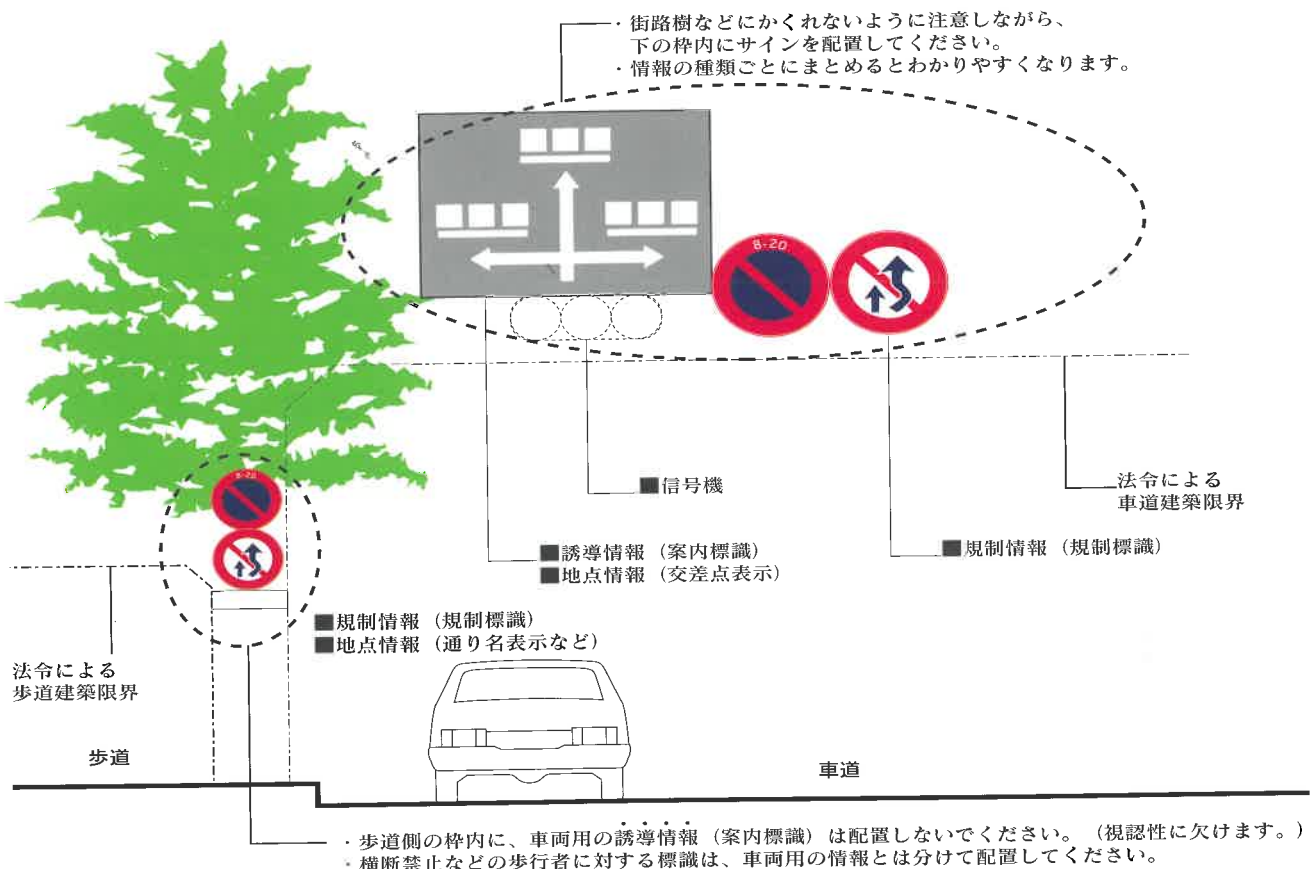
□ローマ字など

・漢字の1/2、小文字は大文字の3/4程度

・数字は漢字の0.5~1.0倍

・文字間隔は漢字の大きさの1/10以上

※建設省「道路標識設置基準」抜粋





●外来者と生活者

情報を伝達する対象は、その人が必要とする情報の違いにより、大きく「外来者」と「生活者」に分けることができます。

1) 外来者

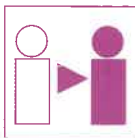
外来者は、不定期に生駒市に訪れる人で、目的は観光、買物、仕事、遊びなど様々です。「外来者」は基本的に生駒市の地理をあまり知らないことを前提としてサポートをする必要があります。

2) 生活者

生活者は、市民と、市内に就職、就学している人などです。「生活者」は、普段市内で生活しているので、行動の範囲内で必要な情報については、すでに持っていると考えられます。

●配慮のポイント

対象者	対象となるサイン	配慮のポイント
外来者	外来者の動線上の各種サイン 交通拠点の案内誘導サイン 歴史・文化施設・観光関連のサイン	スムーズにつなぐ ・他の交通機関と連携してスムーズな誘導を図る。(配置上の連携、表現の共通化など) 好印象を与え、信頼性を高める ・市の都市構造を踏まえたわかりやすいルートによる誘導 ・市境界サイン、市域全体に共通するサインデザインなど ・行動に関する情報の充実 (広域案内サインの増設、トイレ・電話ボックスへの誘導案内、情報窓口などの設置) 初めて訪れた人に対する表現 ・地名のひらがな表記、またはふりがな併記(英文、ローマ字併記) ・「〇〇はどこですか」が通じる通称の使用
生活者	掲示板、ゴミ収集案内、避難場所案内など生活に密着したサイン	愛着のあるまちにする ・地区の魅力ある景観を大切にする。 (機能性を重視した、シンプルで控えめなデザイン) ・生活者の動線を踏まえて設置する。 (動線の交差する位置に設置する、一カ所にまとめるなど) 生活関連情報を充実する ・災害など非常時における情報伝達の徹底と継続的なサポート体制により、安心感を高める。 ・イベントなどの身近な情報の発信により、生活にゆとりと潤いをもたらす。



2 伝える相手について

2-3 生活弱者

●障害者

1) 障害を補完する手段を検討する

健常者の場合と同様に、文字の大きさや視認性を高める色彩を検討するなどの一般的な配慮の他に、通常の文字の認識が困難な人に対しては、点字や音声によるサインが一般化されています。

右ページの「障害に対する一般的な配慮事項」を参考に、障害者の動作スペースの安全性や快適性を高める工夫をしてください。

2) 障害者に必要な情報を伝える

障害者に配慮した設備を整備すると同時に、そこに至る動線を確保し、かつそれらの情報を伝えることが大切です。

例えば、スロープや身障者対応のエレベーターなどの整備の際は、その設備の存在を知らせるためのサインを設置するとともに、設備までの確実な誘導を図る必要があります。

3) 総合的なサポート体制を整える

科学技術の進歩により、身体的機能を補完するための情報通信機器など様々な技術が研究されています。

サインはもとより、他の施設整備や障害者を取り巻く社会的環境の整備などと連携した、総合的なサポート体制を整える必要があります。

●高齢者

視覚、聴覚、運動能力、判断能力など高齢化に伴う機能低下によるさまざまな障害があり、これについては、障害者と同様の配慮が必要です。

今後は、高齢化社会に対応したサイン整備が望まれます。

●子供

子供に対するサインでは、複雑な文章や表現を避けてください。情報をわかりやすくするためのイラストやピクトグラムも効果的です。

ただし、過度なイラストや表現については、かえって伝えたい情報をあいまいにすることもありますので注意が必要です。

■障害者に対応したサインの例



点字サイン（手すり）



点字ブロック



点字サイン（案内サイン）

※具体的な整備手法については、「奈良県住みよい福祉のまちづくり条例設計マニュアル」（奈良県 平成7年10月発行）を参照してください。

■高齢者の機能低下にともなう障害

生理的機能の低下	記憶、肺活量、持久力の低下、頻尿
身体的機能の低下	老人の平均歩行速度 65歳以上 0.8～1.1m/sec（成人1.5m/sec）
感覚的機能の低下	老人の視力低下 45～50歳から低下 60代平均 0.4（20代平均 0.9） 焦点調整機能 10代から低下、40代後半から老眼 色彩の判別能力 黄色系を中心に判別能力が低下
総合的機能の低下	動作、適応能力、危険回避能力



イラストによるやさしい表現の例



過度な表現の例

情報の内容は大人を対象とした公園の利用説明。内容と関係ないイラストは、伝えなければならない内容をあいまいにしている。



●障害に対する一般的な配慮事項

区分	特性	配慮すべき事項	配慮内容
車いす使用者	座位で移動	視点が低い	・案内板などは見やすい位置に設置 ・鏡は健常者と兼用できる大型のものが望ましい
		高い所は手が届かない	・エレベーターの操作などのスイッチ類は車いす使用者が使用できる高さに設ける ・柵などを設ける場合は車いす使用者が手の届く高さにする
	車輪で移動	数センチの段差を乗り越えられない	・段差が生じる場合は傾斜路を設ける ・公共性の高い一定規模以上の建築物や駅にはエレベーターを設ける
		車輪が溝にはまりこむ	・排水などのふたは車輪が落ちないものにする ・エレベーターのかごと床のすき間はできるだけ小さくする
	車いすの大きさ 形、動き（電動は手動より大きく、重い）	スペース	・廊下幅は車いす利用者の通行に必要な幅を確保する
		足のせ台（フットレスト）が出ている	・出入口の幅は広くとる ・洗面器、カウンター、記載台などは、膝が台の下まで入ること
		横に動かない	・回転できるスペースを設ける
		開き戸は使いにくい	・居室の出入口はなるべく引き戸とし、開き戸の場合は回転スペースに配慮する ・車いす使用者用便房、浴室、シャワーなどは引き戸又はアコーディオンカーテンにする
	乗り移り	高低差	・便座、脱衣室のベンチなどは乗り移りしやすい高さとし、乗り移りに必要な手すりなどを確保する
		スペース	・トイレ、駐車場などに乗り移りに必要なスペースを確保する
	手動は、手で車いすを漕ぐ	傾斜路では負担が大きい。	・傾斜路の勾配を緩やかに手すりや踊り場を設け、負担を小さくする
		移動時は両手がふさがっている	・雨に濡れないよう庇の下で自動車などからの乗降ができるようにする
杖使用者	杖の接地面積が小さい	滑りやすい	・床面は滑りにくい仕上げる ・階段はけ込みを設け、踏面から滑らないように、又杖が引掛からないようにする ・手すり子型式の場合は基部を立上げる
		移動時は手がふさがっている	・雨に濡れないよう庇の下で自動車などからの乗降ができるようにする
		溝にはまりこむ	・排水溝のふたは杖が落ちないものにする
	杖の振り幅が広い	狭いと通りにくい	・廊下幅は杖使用者の通行に必要な幅を確保する ・出入口の幅は広くする
	体の安定を保ちにくい	段差は危険	・段差が生じる場合は手すりを設ける ・段差のけあげは小さくする
視覚障害者	空間把握が困難	位置、方向の把握が困難	・玄関などに誘導鈴を設ける ・廊下、階段、傾斜路などに手すりを設ける ・位置関係が分かるよう視覚障害者誘導用ブロックを設ける ・視覚障害者用ブロックは他の部分と対比することができる色調にする
		視覚による危険予知が不可能又は困難	・階段や危険箇所の前面に視覚障害者誘導用ブロック（点状）を設ける ・廊下、階段などの照明に配慮する ・階段の段鼻は踏面、けあげ区別できるようにする
	視覚情報の認知が不可能又は困難	文字情報の認知が不可能又は困難	・案内板、便所の表示板、階段の手すりなどには点字標示を行う ・エレベーターでは、音声を利用した案内装置を設ける ・案内板は大きめの文字を用い、色の対比や明度差に配慮する
聴覚障害者	音声情報の認知が不可能又は困難	音声による危険予知が不可能又は困難	・駅舎のプラットフォームなど危険箇所では電光掲示板による注意喚起を行う ・呼び出しを行うカウンターでは電光掲示板を設置 ・客席、観覧席では難聴者用設備を設置

「人にやさしい公園づくり
バリアフリーからユニバーサルデザインへ」
浅野房代・亀山始・三宅祥介著 より



3 伝える場について

3-1 周辺環境との調和

◇サインの機能を高めるために

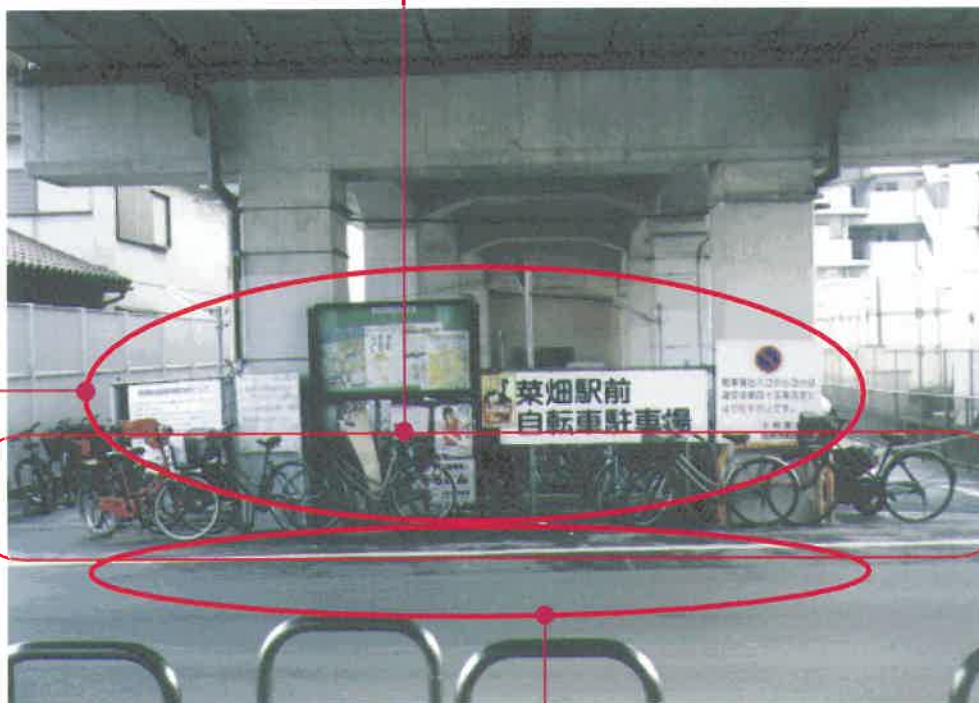
下の写真では、サイン一つ一つには大きな問題はありません。しかし、周辺の状況が整理されていないために、その場所全体が煩雑になり、結果的にそれぞれのサインが十分機能していません。

まず、サインを設置する場所の状況を十分調べてください。また、そのサインを誰がどのように利用するのか、想像してみてください。

■放置自転車と看板

放置自転車や余計な広告物のためにサインが見えにくくなっています。

自転車の高さを考慮してサインの表示面の高さを設定したり、余計な広告物をつけにくい構造にすることで、一時的には解決しますが、他の事業との連携を図り、サインがより見えやすくなるよう努力する必要があります。



■隣り合うサイン同士の関係

この周辺に必要なサインが、たまたま空いている（設置しやすい）スペースに集まったようです。掲示板下の広告や放置自転車を含めて、全体的に雑然としており、利用者は、どの情報が自分にとって必要な情報なのか判断に迷います。

駐車場に関係するものは駐車場看板のまわりに配置するなど、同じ性格の情報を一つにまとめることで、かなり状況は改善されるのではないのでしょうか。

■前面スペース（道路）との関係

サインと前面の道路（車道）との間に余裕がないため、立ち止まって読む必要がある掲示板や説明サインはこの場所には不適當です。歩道の整備または、適当な場所へのサインの移設が必要です。



●整理しながら設置していく

一般にサイン設置が必要な場所には、看板、工作物が多く、煩雑な景観であることが多いようです。特に主要交差点や駅前、様々な情報が必要な場所であると同時に、人目に触れやすく、民間にとっても好適な場所です。

このような場所で、サインを目立たせようと派手にしても、結果的に景観を煩雑にする要因を増やすだけです。

サインを設置する際に既存のサイン、看板、工作物を整理することは、サインそのものを機能的にすると同時に、景観を向上させる上で有効な手段となります。



●情報伝達にふさわしい場の創出

利用者がサインから情報を受け取るためには、適切な空間が必要ですが、実際は、設置のスペースさえ確保するのが難しい現状です。

そのため、周辺環境を整えつつサイン整備を行う手段として、例えば下記のように他の施設整備と連携することが必要となります。

- ・公園などの公共施設の道路に面した空地进行サインの設置場所として利用する。
- ・公園、歩道など施設の新設、改良と連携してサインを利用する人の環境を整える。



●他のサインとの連携と協調

前述のように、他のサインも集中するような場所においては、サインを整理すると同時に関連する情報を一カ所にまとめるなど、サイン同士の協調が求められます。

例えば、利用者の行動をスムーズにするためには、高速道路や国道のサイン、鉄道、バス、タクシーなどの交通機関との連携が必要です。

また、それらの大きさやデザインをそろえることにより、景観的にも統一感を与えることができます。

ただし、それぞれの設置主体が異なりますから、実現のためには、設置や管理区分などの調整が必要です。



3 伝える場について

3-1 周辺環境との調和

●民間サインとの連携の例

次の項目は、民間のサインと積極的に連携することで、相互に機能が高められる例です。

バス停留所サイン

バスルートは、市民の生活に密着して隣接都市や市の主要施設をネットワークしています。

バス停サインは目にとまりやすく、市民に周知したい情報を設置する場所として適しています。次の住区案内図や掲示板などを併設することにより、生活に密着した便利な情報拠点として機能させることも可能です。

また、停留所から最寄りの施設までの案内誘導などを充実させることによって、バスルートの利便性、安心感を向上させることができます。



路線案内、時刻表をバス
シェルターに共架した例



周辺の案内サインや、方向誘導サインと同じデザインでバスのりば案内を設置した例

住区案内図・掲示板

民間（地元）によって設置されている住区案内図や掲示板は、市民生活に必要な身近な情報板として機能していますが、設置場所を調整したり、他の情報を併記することにより、情報源としての価値を高めることができます。



掲示板とシェルターを併設
した例



住区案内図と公衆電話を併設した例



◇景観とサインは別物ではない

「まちは情報で氾濫している。」という言い方をすると情報が悪者のように聞こえますが、現代社会においては、人は情報無しでは生活してはいけません。

人はまちの中で、看板やサインや信号機だけを見て行動しているわけではありません。まち中の様々なものを情報源として、行動し、生活しています。

このように考えると、まちなみや景色は、まちの様々な情報を発信するサインであるといえるのではないのでしょうか。

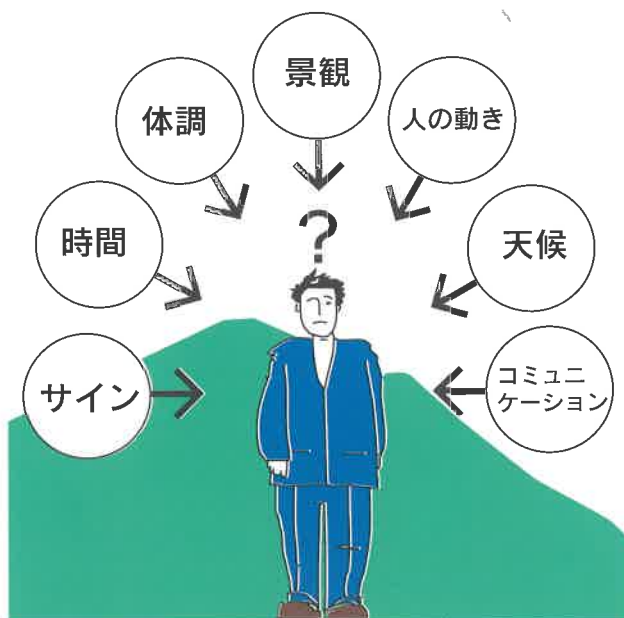
「景観とサインが、一体的に生活者や外来者に情報を与えることが必要」

この章ではサインを景観と同様、生活のための情報のひとつとして考えます。まちの様々な情報が、人にわかりやすい状態であれば、とりたててサインは必要ありません。

しかし、知らないまちや、まわりがよく見えない場所（地下街など）では、人は、経験によって培ってきた判断基準があてはまらないので、混乱して迷ったり、不安になります。このときサインによって適切な情報を伝えることで、人に安心感をあたえることができます。

生駒市の特徴である、自然と都市的なものがうまく調和したまちなみや景観は、古くから生活になじんだ情報と新しい情報とがバランスよく調和して、わかりやすくなっている好ましい状態だともいえます。

新たに景観に付け加わる情報であるサインは、景観に与える影響を最小限に抑えながら、景観と一体的に、生活者や外来者に情報を与えるよう配慮することが必要です。



人は何をもとに行動するか



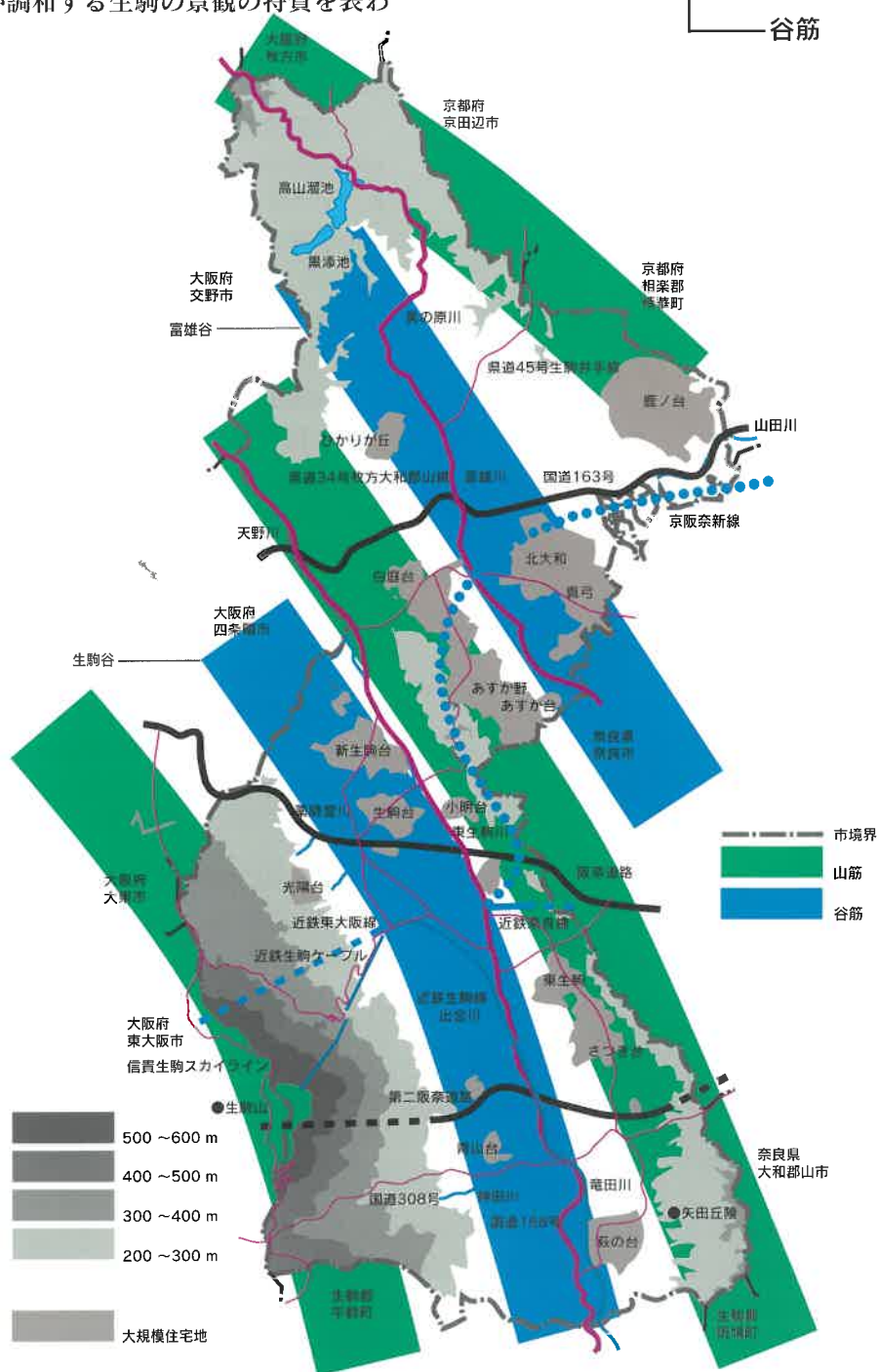
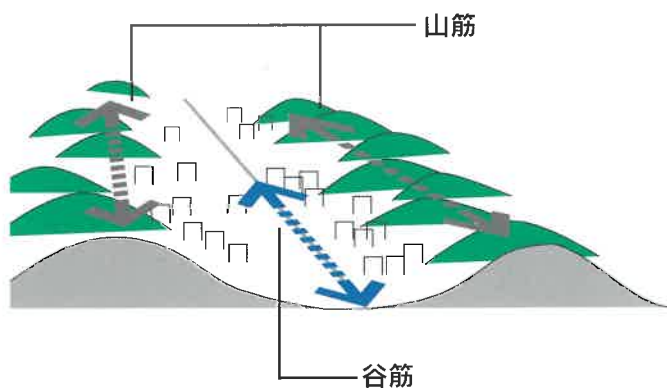
3 伝える場について

3-2 景観への配慮

●谷筋を中心とする都市構造

生駒山系と2つの丘陵（西の京丘陵、矢田丘陵）にはさまれた2本の谷筋（富雄川-県道34号のライン、竜田川-国道168号のライン）は、生駒市の歴史や自然に基づき形成されてきた都市構造を明解にしています。

- ・谷筋は、生駒市内で生活、行動するための、わかりやすい南北の動線です。
- ・谷筋から見える、山々や丘陵の緑を背景とするまちなみは、自然と都市が調和する生駒の景観の特質を表わしています。





●「生駒らしさ」に対する配慮

1)「まちはサインの宝庫」

まちの眺望や景観は、情報を発信するという視点でとらえると、標識や看板などでは代用できない、まちの重要なサインであるといえます。

川に架かる橋、神社や仏閣などを囲む緑、特徴的な建物など、まちで行動する上で手がかりとなるものはたくさんあります。

眺望は、これだけでなく、季節感や、天候、時間など、豊かな情報を与えてくれます。

2)「上から下、下から上への眺め」

生駒には、高低差のある地形やランドマークである生駒山の眺望など変化に富んだ景観特性があります。

高所からの眺めは、住宅地や道路、川や点在する緑など生駒の特徴的なまちの構造を把握することができます。

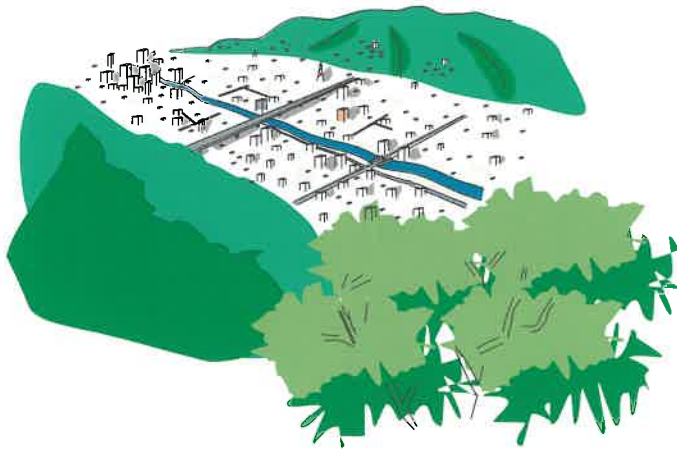
また、市街地から見た緑豊かな山々は、心なごむ都市景観を形成する遠景となっています。

3)「河川沿いの道路からの視界を守る」

富雄川や竜田川、東生駒川などは、生駒市を南北に走る谷筋の中心軸です。これらの軸をはさみ、両側につらなる生駒山や丘陵など、行動の手がかりとなる目印がいつでも確認できることは、人に安心感を与えます。そのため、河川周辺から山々への眺望を大切にする配慮が必要です。

4)「魅力的なまちなみを大切にする」

市内にはいくつかの特徴的な景観があります。歴史的な街道や門前町の風情をとどめるまちなみ、田園風景、整然とした住宅地などは、まちの歴史、文化を感じさせる魅力的な景観となっています。



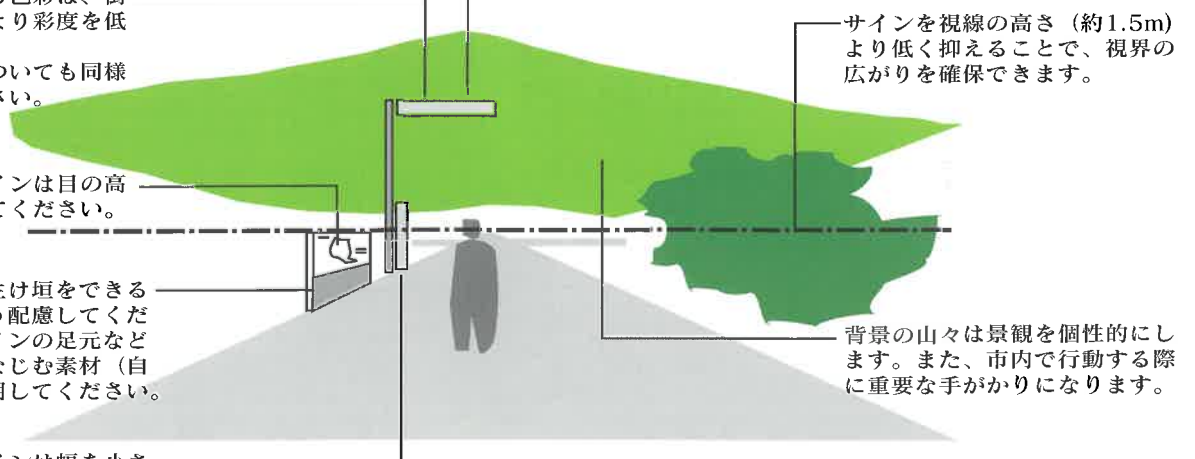
車道に張り出すサインは、視界を遮らないよう面積を必要最小限にとどめてください。

サインに使用する色彩は、街路樹や山々の緑より彩度を低くしてください。表示面の裏面についても同様に配慮してください。

面積の大きいサインは目の高さより低く抑えてください。

沿道の石積みや生け垣をできるだけ遮らないよう配慮してください。また、サインの足元などに周りの景観になじむ素材（自然石など）を活用してください。

高さが必要なサインは幅を小さくしてください。



サインを視線の高さ（約1.5m）より低く抑えることで、視界の広がりを確保できます。

背景の山々は景観を个性的にします。また、市内で行動する際に重要な手がかりになります。



3 伝える場について

3-2 景観への配慮

●景観に配慮したサイン

「視界を通すサイン」

まわりの景色を遮らないよう、高さを抑えたサインの例です。

表示面を傾けることによって、人が自然な姿勢で見ることができるよう配慮しています。



「にぎわいのあるまちなみと調和したサイン」

シンプルな形と彩度を抑えた色彩により、まちなみにぎわいを活かしながら、しっかりと情報を伝えている機能的なサインです。

サインの裏面や支柱については目立たないように、着色するなど工夫をしています。



「歴史や自然に配慮したサイン」

自然景観や歴史的な景観になじむよう配慮したサインです。

石や陶器、コンクリートなどを使い、人が身近にふれることができる部分の色や素材感にも配慮しています。

さりげないシンプルな形が好ましく感じられます。



「景観にアクセントを与えるサイン」

まわりの風景と対比的なデザインにより、景観にメリハリを与え、場所の特質を際だたせているサインです。

特定のエリアや、シンボルロードなどの施設を顕在化するのに有効です。

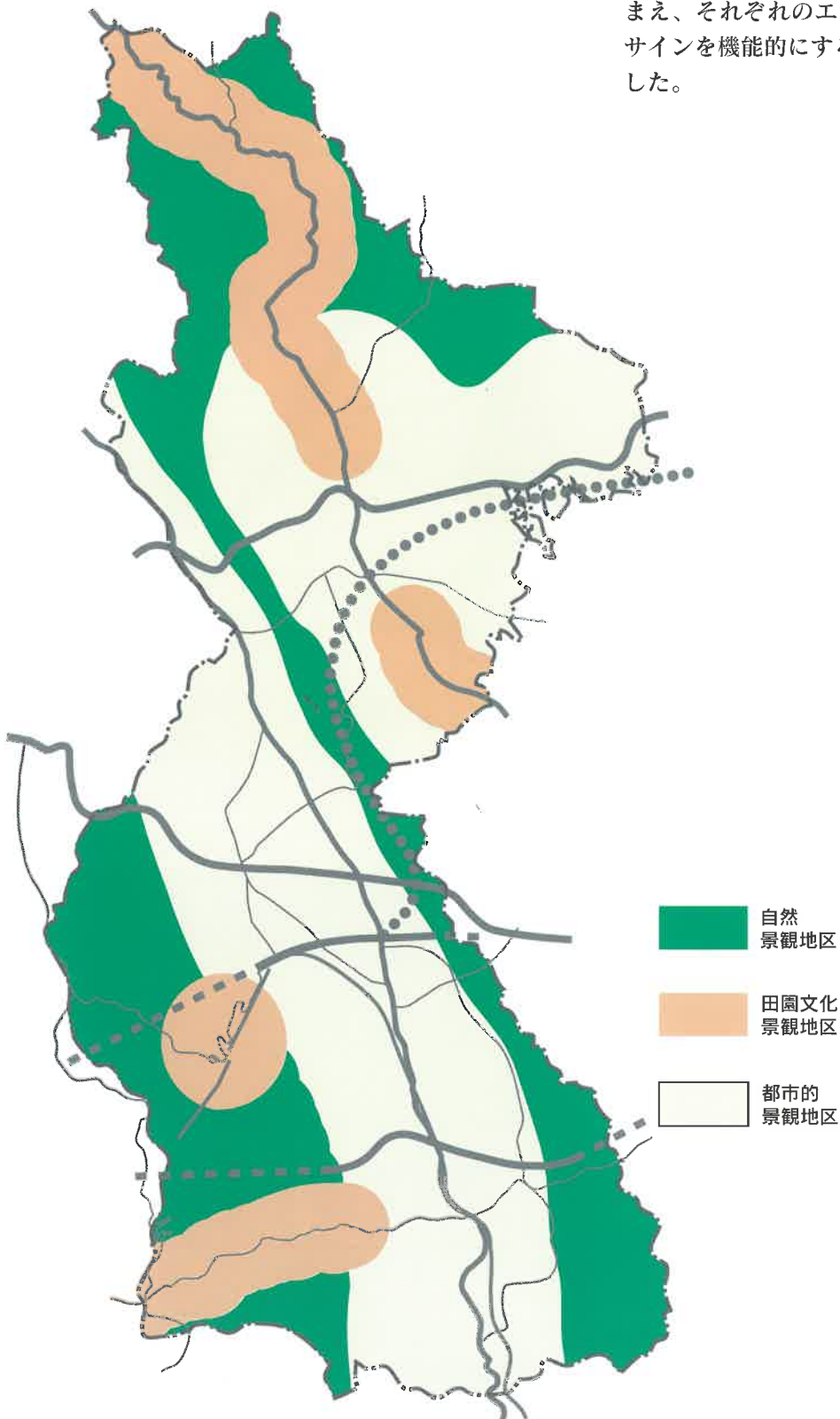




●エリア別の景観特性に対する配慮

生駒市では、市全体を大きく3つのエリアに分け、それぞれの特性を活かした景観のあるべき姿、整備の方向性を示した「生駒市都市景観形成ガイドプラン」を策定しています。

都市サインガイドラインでは、このガイドプランを踏まえ、それぞれのエリアにふさわしいサインのあり方、サインを機能的にするための具体的な方策などを示しました。





●自然景観地区

1) 景観の特質

- ・背景となる生駒山系、矢田丘陵、西の京丘陵の「緑の稜線」
- ・市民の身近な憩いの場、学習の場としての山麓、丘陵部
- ・眼下に広がる眺望を楽しみ憩うことができる場

2) サイン整備上の配慮

「緑の景観になじむデザインにする」

このエリアでは、木々の緑を最優先にしたサインのデザインが必要です。緑が映える景観のためには、

①色彩

極力、緑系の色は避けてください。また、基調となる色は木々の緑より鮮やかな色を使わないでください。

②素材

自然の素材を活用してください（石、木など）。また、艶の少ない仕上げにしてください。

③形

擬木など、自然（植物や生物）を模した形は、違和感を与えるため使わないでください。

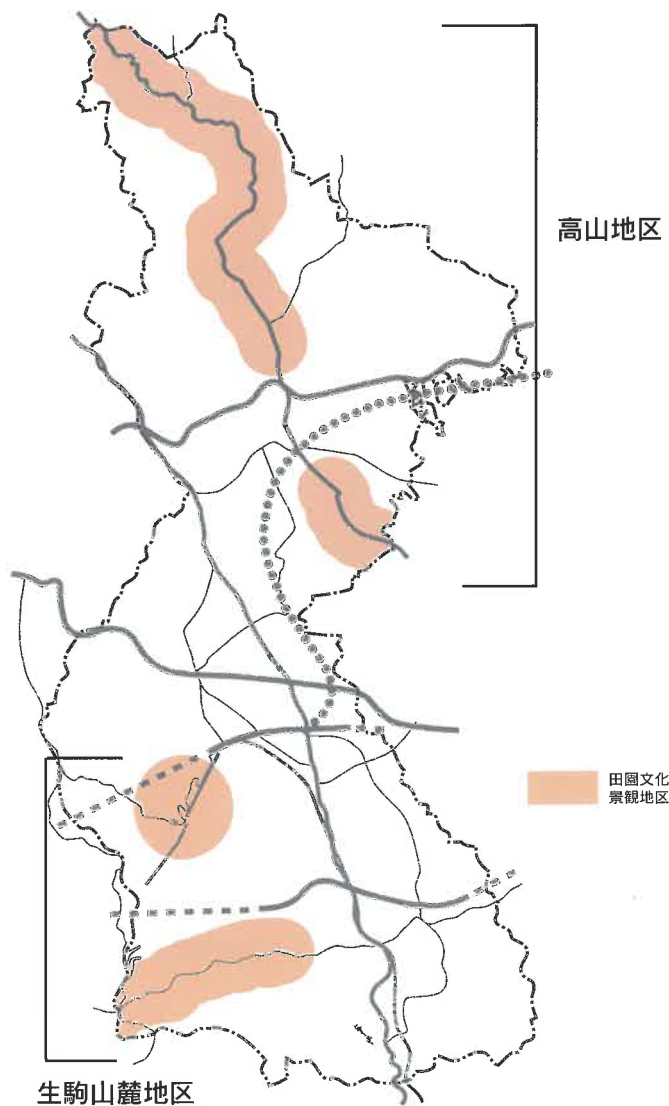
「眺望を考慮したデザイン、配置を考える」

眺望地点にサインを設置する場合は、高さを抑えたり、配置を工夫するなど、視界を遮らないよう配慮してください。



地区の魅力的な景観





地区の魅力的な景観



●田園文化景観地区

1) 景観の特質

この地区はいくつかの特色あるエリアに分かれています。
その中でも代表的な地区は次の2地区です。

高山地区

- ・西の京丘陵を背景とした農村集落景観
- ・四季折々の風景が醸し出すふるさと景観
- ・竹林や茶釜製作風景などの個性的な景観

生駒山麓地区

- ・宝山寺などの多くの歴史的な資源、門前町の風情をとどめる石段や暗峠の石畳など沿道のまちなみが織り成す景観

2) サイン整備上の配慮

「背景の緑に配慮する」

寺社林や垣根などの身近な緑に配慮したサインの配置や、ボリュームにしてください。

極力東西の山々への視線を通してください。

「安易に竹や茶釜をモチーフにしない」

特産物などを模したデザインは、まちの個性をアピールする手段としてよく用いられますが、かえってまちの雰囲気損なうことがあります。

竹や茶釜などをサインのモチーフにする場合は、慎重に検討してください。

「落ち着いた色彩、素材を使う」

①色彩

彩度を抑えて落ち着いた色調にしてください。

②素材

できる限り石や木材など、素朴な素材を活用してください。



●都市的景観地区

1) 景観の特質

この地区は大きく2つの特徴ある景観エリアに分かれています。

同じ都市的な景観でありながら地区の性格の違いから、景観に対する配慮も異なります。

住宅地区

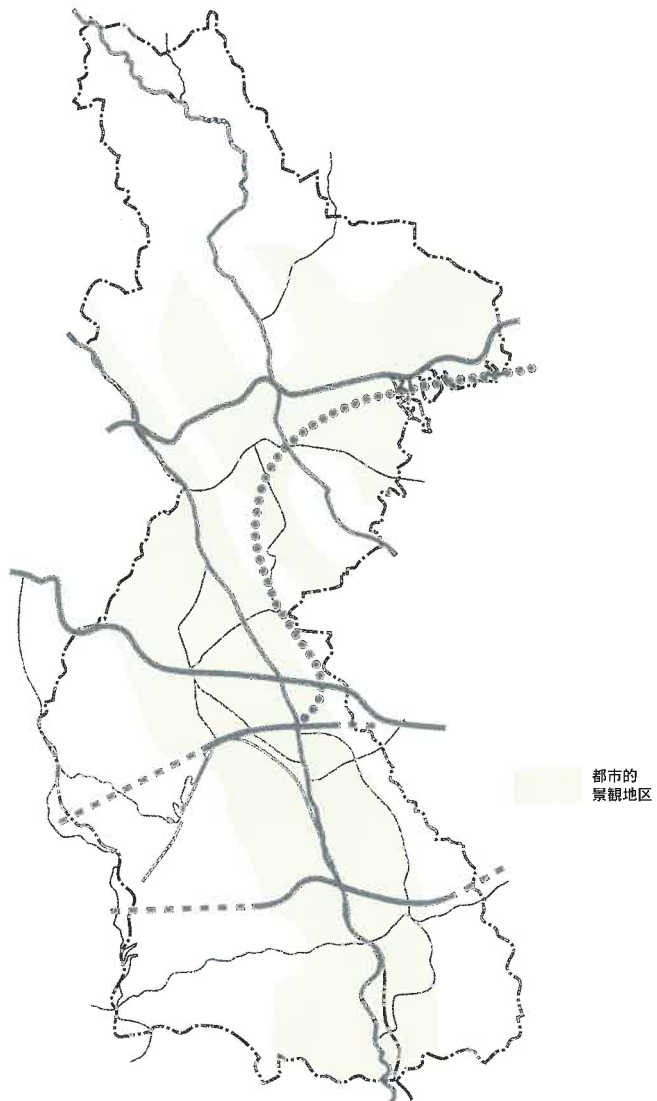
- ・良好な住環境が保たれている大規模住宅地
- ・山麓部に広がる起伏に富んだ一般住宅地
- ・マンションなどの集合住宅地

この地区は、生活者主体の地区です。通過交通のある幹線道路を除いて、外来者に対して案内誘導サインを設置する必要がないため、掲示板や住区案内など現状のサインも、住宅地区にふさわしい景観になじんだシンプルなものほとんどです。

拠点地区

- ・本市の玄関口となる生駒駅周辺の中心市街地
- ・東生駒駅周辺と沿道の商業施設地区
- ・南生駒駅周辺の大規模店舗が集積しつつある地区
- ・学研都市の玄関口となる京阪奈新線新駅周辺地区

この地区は、公共施設や商業施設が集中し、交通機関のターミナルであり、様々な動線が交錯しています。そのため、サインや看板が立ち並び、景観も煩雑になる傾向があります。



2) サイン整備上の配慮

住宅地区

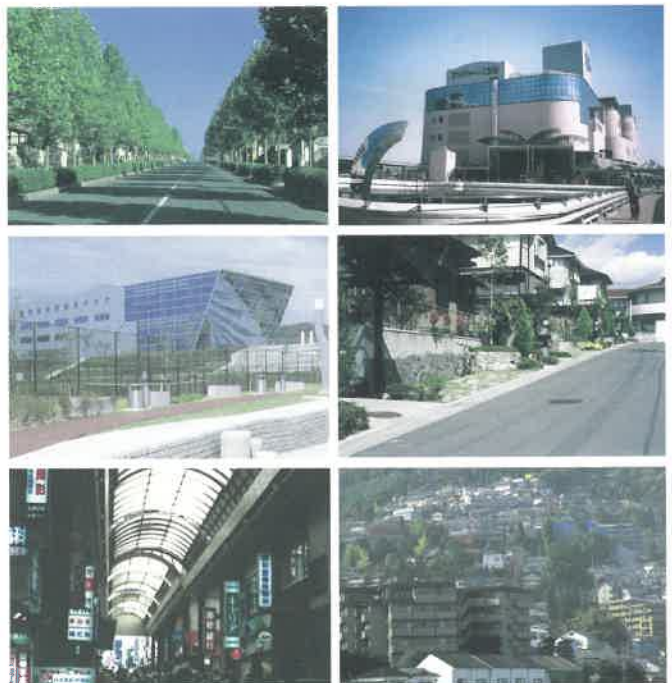
「極力目立たない、シンプルなのが望ましい」

住宅地の落ち着いたまちなみに配慮して、シンプルなものにしてください。デザインやボリュームを抑えても道路上に工作物が少ないので、確実に目に入ります。

「地区のメイン道路に情報を集中させる」

比較的新しい住宅地の場合、地区のメインとなる道路は歩道に余裕がありますので、特に住区案内などの外来者にも必要なサインはこのような道路に集中させると、利用する人に対して親切です。

地区の魅力的な景観





拠点地区

「サインが機能するためのデザインを工夫する」

ここでは、サインが機能的であることが最も大切です。適切な内容のサインが適切な大きさと、適切な場所にあることが必要です。大きな商業看板に対抗して同じように派手なサインを設けても埋もれてしまいます。

逆に、公共サインは、民間の看板とは異なった視点で、情報が伝わりやすいよう、デザインなどを工夫することが必要です。

■サインの位置（配置）の整理

「サインの位置（配置）を整理する」

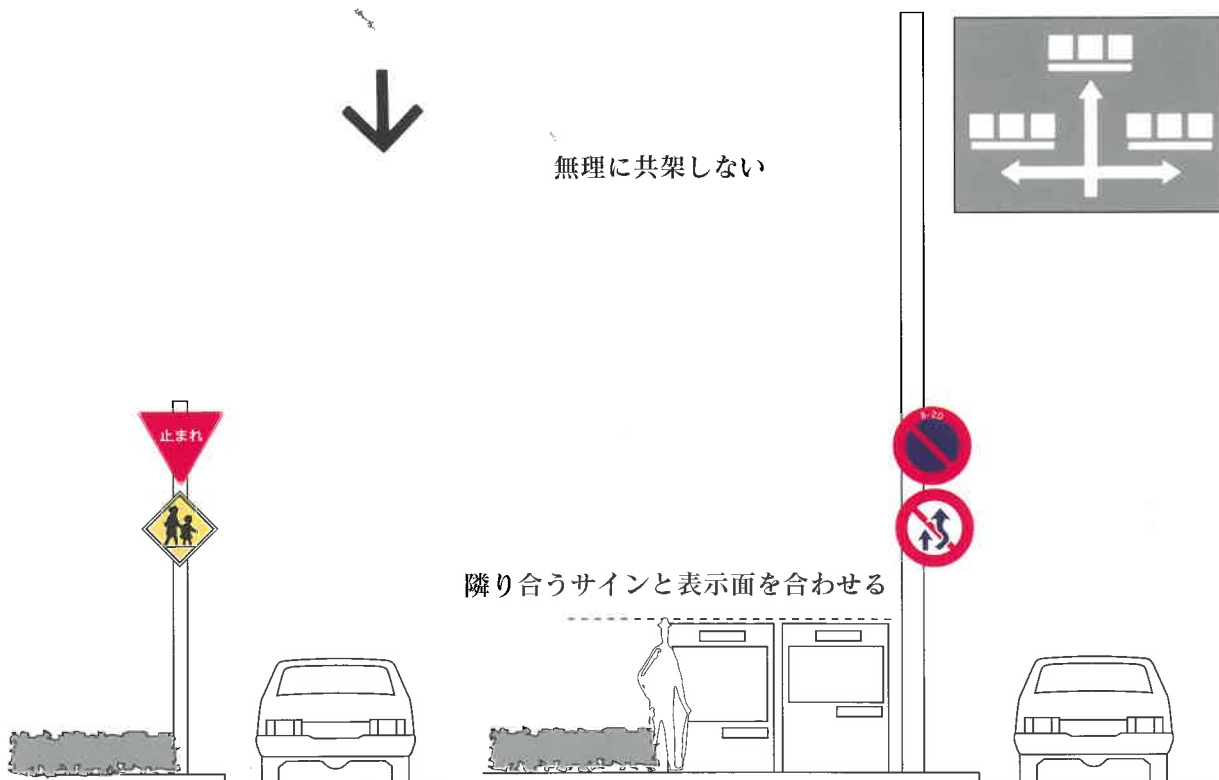
サインを新たに設ける場合は、場所、位置などの条件を整理した上で、既存のサインや工作物に共架する、あるいはあえて独立させるなど、具体化の手法を検討する必要があります。

このような配慮を積み重ねることによって、サインの増加を抑え、整った景観の形成を図ることができます。



無理に共架しない

必要な情報を必要な位置に配置する



隣り合うサインと表示面を合わせる

■案内サイン

特定のエリア内の施設の分布や、その施設へのアクセス経路、距離を地図上にあらわしたもの

例) 公共施設案内 観光案内 住区案内図



- ・地区の構造や施設の配置、交通網など多くの情報を包括的に伝えることができます。
- ・反面、目的地までのルートや交通手段の正確な表現に欠けます。誘導サインと組み合わせることで、誘導案内を確実にすることができます。

■誘導サイン

主に矢印によって特定の施設への経路を示すサイン

例) 道路案内標識 歩行者用施設誘導標識



- ・目的地への誘導を確実に行うためのサインです。
- ・利用者は、設定されたルート上をサインを一つ一つたどって目的地に向かうことになりますから、出発点から目的地までのルート設定や設置間隔などを十分に検討する必要があります。

■記名サイン

施設の名称や地点名称などを表示したサイン

例) 施設名表示板 町名表示 道路名表示



- ・誘導サインと形や色彩などに統一感があると、よりわかりやすくなります。

■規制サイン

行動を規制、あるいはコントロールするためのサイン

例) 立ち入り禁止 駐車（駐輪）禁止 横断歩道



- ・情報伝達の確実性が特に要求されます。



■啓発サイン

啓発活動を目的とするサイン

- ・まちの景観やイメージに対する影響が大きいので、ボリューム、形、色などと同時に、サインそのものの必要性についても十分検討する必要があります。



■説明サイン

説明することを目的とするサイン

例) 工事中の看板 施設の利用方法を説明した看板

- ・多少時間はかかっても、確実に情報を伝える場合に使われます。
- ・多くの情報をわかりやすく伝えるために、情報の整理が必要となります。



■広報板・掲示板

行政や、自治会などがその活動報告やイベントなどの告知を行うためのサイン

例) 広報板 自治会掲示板 お知らせ案内板

- ・掲示方法により、ショーケース型のものやボード型のものがあります。
- ・ポスター、お知らせ文など、掲示する期間が短いものに限られます。
- ・他のサインのように一方的な情報伝達ではなく、市民同士のコミュニケーションにも利用することができます。

◇誘導サインシステム

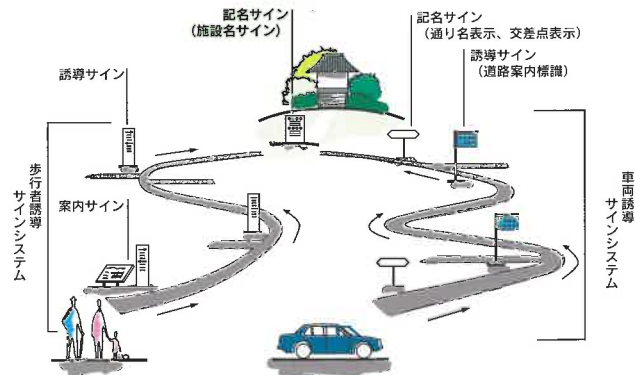
歩行者や車を目的地に地図や矢印によって誘導するサインを総称して誘導系サインといいます。

一般的に、誘導系サインは、案内サイン、誘導サイン、記名サインで構成されます。

これらのサインは他のサインと違い、目的地までのルートはもちろんのこと、市域内外に及ぶサインの連携が必要です。そして、一つ一つのサインがそれぞれの役割をきちんと果たしていないと一連の流れとして機能しません。

サイン全体をコントロールするためには、誘導する対象（人、車）に応じて、駅や交差点などの交通拠点をネットワークした、誘導サインシステムを設定する必要があります。

右下図は、生駒市内で誘導系サインの重点的な整備が望ましい拠点を表したものです。

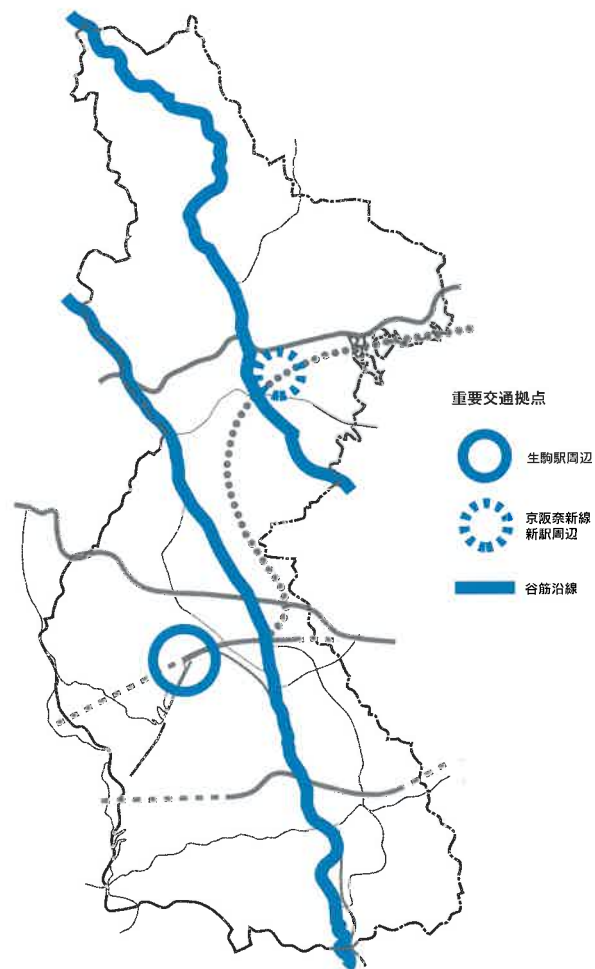


重要交通拠点

「生駒市都市サイン計画」では生駒市全域をカバーするために重要な交通拠点を、生駒駅周辺、京阪奈新線新駅周辺、及び河川沿いの幹線道路上に設定し、サイン整備の方策を検討しています。

これらは、広域交通手段（鉄道、広域幹線道路）により市外と市内をつなぐ結節点であり、市内の各所へ誘導するための重要拠点です。

また、道路景観や、施設整備上課題が多い場所で、サインを設置する上でも複合的な整備が必要です。



生駒市都市計画課

